

次代を担う神経難病リハビリテーション

～臨床研究のすゝめ～

菊地 豊¹⁾

1) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 神経難病リハビリテーション科

神経難病は、原因不明で治療法がなく長期療養を必要とする稀少性疾患を指す行政用語である。稀少性をその旨としている一方で、Dorsey と Bloem (2017) が世界的なパーキンソン病患者の爆発的増加を Parkinson Pandemic と称しているように、人口の高齢化に伴う神経難病患者の大幅な増加とそれに伴う医療費の増大が予測されている。神経難病患者の増加による理学療法ニーズの増大が予想される一方で、難病法、診療報酬制度、地域包括ケアシステムなどリハビリテーションをとり巻く環境が大きく変化している。このような中で適切なリハビリテーションの提供体制の整備が求められる。

本シンポジウムでは、神経難病リハビリテーション研究会で取り組んでいる共同研究活動を題材に、神経難病のリハビリテーションを巡る環境変化を踏まえた神経系理学療法分野の展望について考える機会としたい。